

MOVE YOUR HEART!

進路通信第5号

保護者懇談会が始まります。夏季休業を前に、進路通信の増刊号として第5号を出します。

《当面の進路に関係する行事（一部既報）》

- 8/24（木） 始業集会 課題テスト
- 25（金）～30（水） 1～3限授業 4～6限学校祭準備
- 25（金） 指定校推薦開示
- 26（土） 3年第2回全統記述模試
- 31（木） 学校祭
- 9/1（金） 学校祭

《夏の宿題》

「昨年のこの時期の進路通信に以下のようなことを書いた。」と昨年書いた。今年もコピーする。

「自分がクラス担任のとき、クラスの生徒に「担任からの3つの宿題」を出していた。

- ・14時間勉強する日を1日つくる。
- ・24時間スマホに触らない日を1日つくる。
- ・家族の夕食を買い物から後片付けまで、すべて自分一人でやる日を1日つくる。

というものだ。保護者懇談で保護者の前で実行日をいつにするか宣言してもらい、休み明けにその感想を出してもらった。実行した生徒の感想を読むのが楽しかった。」

今年も思いは同じなので、再々掲した。実行してみないか。何かが変わるかもしれないよ。

もう一つ。何でもいいから高校生の夏休みにしか出来ないこと、一生の思い出になることをやってみては、と提案したことがある。その事例を紹介する。こういうご時世なので真似してはいけないこともあるが、「あの夏は〇〇をした夏だ!」というものがあると楽しいと思う。

- ・丸1日自転車を走らせ、夜になったので寝袋で寝て、翌日同じコースを帰ってきた。
- ・友達4人でドーナツ屋へ行き、全メニューを制覇した。しばらく甘いものは食べなくなかった。
- ・苦手な英語を克服しようと中学1年の教科書の1ページ目から読み返して復習した。
- ・毎朝日の出とともに虫取りに出かけた。1週間目に鼻血を出したのでやめさせた（うちの息子）。
- ・大学3年の夏、無計画のままとりあえず出かけ、12日間かけて北海道を旅行してきた（自分）。

《雑感》

先日「世界経済フォーラム」が公表した男女格差の国際比較「ジェンダーギャップ指数2023」によると、日本は昨年さらに順位を落とし、146カ国中125位となった。過去最低の順位である。教育・健康・政治・経済の4分野の中で、政治・経済分野で国会議員の男女比、管理職の男女比などのスコアが特に低い。

男女比が国の政治の優劣を決めるわけではないが、例えば「少子化対策」とかになると、大きな要因になる。問題の根幹はどこで、どんな「対策」が必要なのかわかっている政治家が日本では少ないと思う。自分一人きりで3歳と1歳の子どもと1週間、いや3日間もすごしてみればわかりそ

うなことが、どうやらわかっていない。その経験があってそれが実感できる政治家が日本では絶望的に少ないのだろう。政治批判がしたいのではない。「なんとかしなければ」と取り組みを強化しようとしても本質を見誤っていると効果は薄い。わかっている人に委ねたいのだ（えらそうに書いているが、私自身も「わかっていない」男だった。家事や育児に「協力的」とか「手伝っている」という時点で実はアウトなんだと最近わかったくらい）。

そして実は「わかっていない」のは男性だけではなく、女性もそうなのかもしれない。

そこで女性自身に期待したい。それを実現するための代表格が「女子大」の存在だ。

少し長いが「2023年大学通信7月5日号」から引用する。

「女子大が共学の大学と異なるのは女性のために教育が行われていることだ。男性と女性が同じ場にいると、無意識のうちにジェンダーバイアスが生じることがある。学びやサークルなどすべての活動が女性のみ環境となる女子大では、男性の考えや存在に影響されることがない。女性が女性の視点で課題発見・解決に取り組むことができる。」

「女子大は女性の自立や社会貢献などを教育理念に掲げ、専門職を養成する職業教育や、社会で活躍するための高い教養を身につけるリベラルアーツ教育に力を入れている。妊娠・出産など男性にはないライフイベントが待ち受ける女性にとって、看護師や薬剤師、管理栄養士などの専門職は、再就職を視野に入れたライフプランが考えられるメリットがある。」

「女性の活躍の場が広がっていることもあり、ここ数年は理系学部の新設が続き、学部新設は多様な分野に広がっている。」

という具合である。24年度はお茶の水女子大が共創工学部を、梶山女学園大が外国語学部・情報社会学部を開設する。共学の大学では理系学部の女子推薦枠がどんどん広がっている。生かさないう手はない。調べてみよう。

昔は「女子大」と言えば良くも悪くも「良妻賢母」の育成、というイメージがあった。だが「専業主婦」という時代は終わって、女子大のあり方も変わった。世間はなかなか変わらない。学校でも職場でも地域社会でもジェンダーギャップはあるし、常に意識しなければ改善されていかない。一人一人の心の中に問題の根がある。政治家だけの話ではない。

武義高は女子が男子より50人ほど多い。男子にとっても女子にとってもプラスに考えたい。

企業からの求人票が出そろった。この地区には優良企業がたくさんあることがわかる。求人票を持参した人事担当者は熱心に自社の良さをアピールされ、本校の生徒と縁があることを心から望まれていた。私はモラトリアムを否定しないし、「なんとなく進学」や「とりあえず進学」もありだと思っている。ただ「新卒」の特別扱いがまだまだ主流である日本において、就職の大きなチャンスが今であるのも事実である。もちろん求人票は公開している。

《おまけ》

進路指導室前の廊下にある冊子や資料は、いつでも誰でも持ち帰り自由だ。

加えて今年から陳列棚の右端の机上には各団体が主催する「懸賞論文」の案内をおいている。相当な数が来ている。副賞も充実している（10万円なんていうものも、、、）。小説、短歌、俳句、マンガ、イラストに加えて科学研究などもある。夏休み中にトライしてみたいはかがかな。これらの案内も持ち帰り自由だ。ポスターも貼ってある。応募総数は意外にも少なかったりする。チャンスかもね。一般枠がある場合は、応募して受賞している先生もいるよ。

オープンキャンパスも「お土産つき」や「食事つき」のところが多いね。高校生っていいなあ。